

呉港高等学校 教育後援会だより

教育後援会広報部 平成25年3月1日 第63号

教育後援会 会長 田村 俊朗

息子が高校生になり、教育後援会会長を仰せつかり、あっという間でしたが、無事、務め上げる事ができたのも皆様のおかげです。様々なご協力を頂き、本当にありがとうございました。

現代社会は、東日本大震災、原発事故、欧州の金融危機…次々と国家的危機が起こり、先行きは不透明さを増して来ています。そんな中、卒業を迎え、世間へと出て行く我が子が心配でもありますが、この先行き不安を少しでも払拭するためにも、家族の絆というものが、より大切になって来ると思います。

家族は、同じ家に住んでいるお互いが別の人間なのです。言葉で伝えないと伝わりませんし、感情の全てを汲み取ることも、汲み取って貰うことも不可能です。

言葉を惜しんではいけません。

「ありがとう」

「ごめんなさい」

「愛してる」

伝えないと伝わりませんし、伝えられることはとても幸福なことです。

とても照れ臭いし、とても気まずい時もあるでしょうが、お互いの心を伝え、知る言葉です。

それは親も子も両者に言えることです。

そして、その絆はもちろん、後援会活動や地域活動にも無関係ではありません。

現在では、人付き合いが面倒だと思われる方も多く、懇談会や会議の出席率も低いように思われます。参観日や懇談会、学校の行事といった機会をぜひ活用し、縦の繋がり、横の繋がり、強い後援会をこれからも作って行って頂きたいと思っております。

何よりも自分の子供を守りたいと言う思いは誰しも同じはずです。帰宅時には自分の子供にするように声をかけてやって欲しいと思いますし、挙動不審な子がいれば、声をかけてやって欲しいと思います。その一言が子供のきっかけになるかもしれないからです。

ぜひ、もっと発言をして欲しいということを最後にお願いいたしまして、最後の結びとさせていただきます。

卒業おめでとうございます

3 学年主任 松本政乗

光陰矢のごとしと言いますが、本当にあつと言う間の3年間でした。

この3年間を振り返ってみると、みろくの里での新入生オリエンテーション合宿にはじまり、2年次には広島市青少年野外活動センターにおける進路セミナー、そして3年次には屋久島へ修学旅行に行き、世界自然遺産に指定された大自然・縄文杉に触れ、また知覧の特攻平和会館では心打たれる話を聞くなど多くのことを学びました。

この他にも体育祭や呉港祭と、多くのことが思い出されます。一人ひとりが力を出し切りやり遂げたこれらの行事は、高校生活の良き思い出となり、また人生の支えとなるものと期待しています。

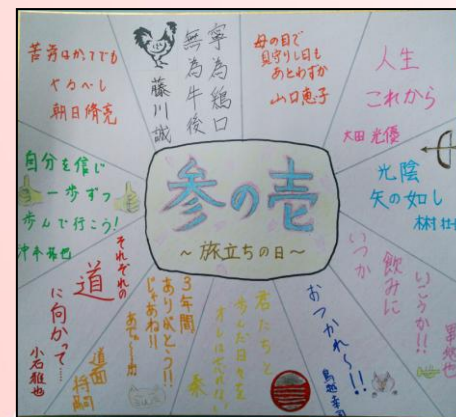
さて、卒業する皆さんの進む道は進学・就職とそれぞれ異なりますが、いずれの道に進んでも、激動の時である現代においては「挑戦する精神」をいかに発揮することが重要になってきます。ただ、挑戦すれば必ず壁にぶち当たる時が来ます。その時には多少の失敗にもめげず、常に前向きに物事を考えることの出来る人が勝利をものにするのだと思います。

人間の一生は失敗の繰り返しです。しかし、失敗を経験すると人間は一回りも二回りも大きく成長します。失敗を恐れずに何事にもチャレンジする気持ちを大事にして下さい。

皆さんの今後の活躍を心から祈っています。

3年1組

担任
藤川先生
副担任
山口先生



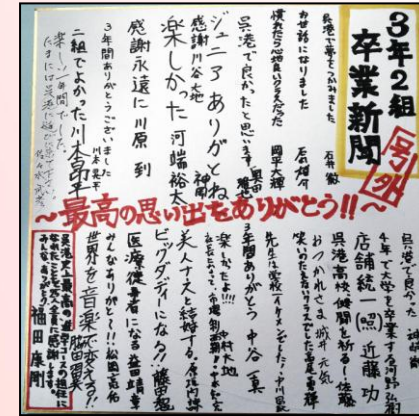
3年2組

担任

福田先生

副担任

佐々木先生



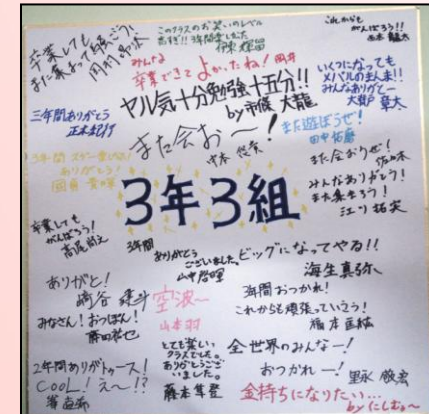
3年3組

担任

岡井先生

副担任

佐々木先生



3年A組

担任

北村先生

副担任

寺田先生



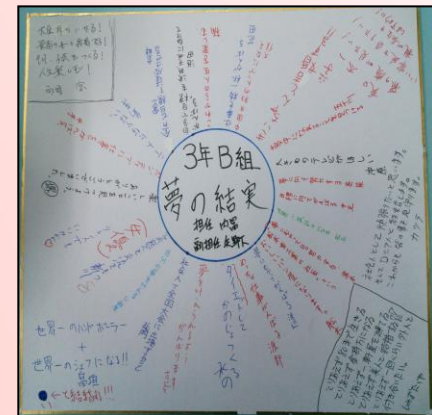
3年B組

担任

内富先生

副担任

矢野下先生



3年C組

担任

永井先生

副担任

矢野下先生



3年E組

担任

河内先生

副担任

横山先生

